

平成26年8月13日  
志政会 絹村和弘

来27年度予算編成に向け、下記事項について提起し、要望いたします。

名実ともに「子育てなら磐田！」を目指し、  
**大胆な子育て支援・少子化対策の実施**

↓

結果として  
**出生率向上・出生数増加・女性就業率アップ・定住者増加**

少子化・人口減少問題が、日本国全体で最重要課題に浮上し、社会・経済政策の大転換を促している感があります。国も「まち・ひと・しごと創生本部」を立ち上げ、地方での若者の雇用確保や、子育てしやすい環境づくりに着手するとして動き出しました。そうした中で磐田市は、日本一バランスの取れた総合力ナンバーワンのまち、子育てするなら磐田と言われるまちづくりを目指しております。ここは、予算ウエイトを見直してでも、他市に先駆け、思い切った子育て支援策・少子化対策を打ち出していきたいと、提起し要望致します。

平成26年度にては、待機児童解消に向けての保育施設充実等ハード部分において大きな投資が実施されました。来期平成27年度に於いては、子育て支援施策のソフト面で大胆な対応策投入をもって、出生率向上、出生数増加、につなげていきたいものであります。

磐田市	平成20年	21年	22年	23年	24年
出生数	1428	1511	1473	1451	1406人
出生率(千人に対し)	8.7	9.2	9.0	8.7	8.4
(死亡数)	(1377)	(1352)	(1486)	(1531)	(1602人)

資料 静岡県統計年鑑

### 「合計特殊出生率」は 生活・教育・人づくりの総合的バランス指標と位置付ける

磐田市は、袋井市と比べて子育て支援に積極的ではないという声があります。そう言われて各種子育て助成制度を比べてみましましたところ、「こども医療費助成」については、袋井市が上回っているものの、公立幼稚園保育料と保育園保育料については磐田市の方が上回る助成をしていたりして、全体では大差ないと言えるかと思うのですが、その他の行政活動を加えたイメージとして袋井市の方が上回るという見方のようにあります。そうした結果が、**合計特殊出生率**に表れていると言われれば認めざるを得ないかと思うところでもあります。

#### 合計特殊出生率

全国平均 1.41人 静岡県 1.53 **磐田市 1.57 (県14位)** 袋井市 1.76 (県3位) 長泉町・裾野市 1.82 (県1位)

平成20年～24年度 厚生労働省 人口動態統計特殊報告「合計特殊出生率」

### 少子化・人口減少を解消させたヨーロッパ・北欧の出生率と女性就業率

少子化・人口減少を食い止め、上昇させた事例が北欧にあります。いずれも仕事と家庭を両立させるための日本の比ではないほどの厚い助成制度が組み込まれています。そして、女性の就業率・社会進出が高いほど出生率が高い傾向となっています。

日本の「夫が外で働き、妻は専業主婦」を望む人は、男性 39.3% 女性 43.0% に及んでいるという結果（明治安田生活福祉研究所調査）があり、北欧レベルとの風土の違いが気になりますが、

少子化・人口減少対策の世界の潮流は明確な方向が出ているのであり、政府も今後大いに参考にして対策を出してくるでありましょう。磐田市としてもそれを先取りするような気概を来期予算・事業方向に表していただきたいものと思います。

北欧の状況	合計特殊出生率	女性就業率
スウェーデン	1.65 (1984年) → 1.9	83%
ノルウェー	1.50 (1998年) 1.9	86%
イギリス	1.63 (2001年) 1.9	75%
フランス	1.65 (1994年) 2.0	77%
日本	1.26 (2005年) 1.43 (2013)	66%

出生率は WHO世界保健統計2013年度版  
就業率は 内閣府男女共同参画局グラフから推定

	日本	フランス	スウェーデン
合計特殊出生率(12年)	1.41	2.0	1.92
児童手当	<ul style="list-style-type: none"> <li>15歳まで支給</li> <li>3歳未満1万5000円</li> <li>3歳から小学校、第1子、第2子1万円</li> <li>第3子以降1万5000円</li> <li>中学生1万円</li> <li>所得制限あり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第2子以降、20歳未満に支給</li> <li>月約1万8000円</li> <li>※第3子以降は約2万3000円</li> <li>所得制限なし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>16歳未満に支給</li> <li>第1子約1万7000円</li> <li>第2子約1万9000円</li> <li>第3子約2万4000円</li> <li>第4子約3万3000円</li> <li>第5子約3万7000円</li> <li>所得制限なし</li> </ul>
子育て対策の支出の対GDP比(09年)	0.96%	3.20%	3.76%

2014年6月28日 日本経済新聞

## 見直し・再検討・改善の具体的方向

上述した見方、考え方をもって、見直し・再検討・改善をしてほしいとする事項・事例は下記の通りであります。

### ○検討の視点

- 子どもを産み、育てやすい社会の環境づくり
  - 子育て・教育の経済的負担減
  - 男女平等、妻も夫も子育て分担
- 社会全体で子育てを支援する仕組みづくり  
核家族にもやさしい子育て社会・地域
- 女性就労機会の創出（子育て支援充実の財源として納税者に育成）
- 出産・子育ては、優先すべき人生最重要の務めの意思表示

### ○具体的な見直し・再検討事項・事例案

- 「こども医療費助成」見直し——近隣市町並みへの見直し
- 児童手当改善——第2子、第3子手当てを厚くする
- 出産祝い金改善——第2子、第3子を厚くする
- 放課後児童クラブの充実——子育て終了ママの活用
- ※ 5.保育ママ制度磐田版の再検討—— “ ” 磐田市独自の事故超越対策・契約方式検討
- 6.磐田版 仮称「パパ手当」の検討——出産立会いから最大10日育休取得賞賛手当て

※平成27年4月より“子ども子育て支援新制度”が導入予定となり「小規模保育」「家庭的保育」が制度化されることになりました。

以上 磐田市の将来を見据え、若者がこぞって磐田に住みたくまちづくりを、これまでの磐田市を超えて推し進めることを内外に宣言し、難題である少子化・人口減少に歯止めをかける政策を推進していただきたいとして、提案・要望させていただくものです。よろしくお願いたします。